

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年8月26日
【事業年度】	第162期(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
【会社名】	株式会社トクヤマ
【英訳名】	Tokuyama Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 井上 智弘
【本店の所在の場所】	山口県周南市御影町1番1号
【電話番号】	(0834)34 - 2055
【事務連絡者氏名】	経営企画本部 経営管理グループ 主幹 鶴見 康健
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田一丁目7番5号 フロントプレイス秋葉原
【電話番号】	(03)5207 - 2558
【事務連絡者氏名】	経営企画本部 財務・投融資グループ 主幹 柏原 永知
【縦覧に供する場所】	株式会社トクヤマ東京本部 (東京都千代田区外神田一丁目7番5号 フロントプレイス秋葉原) 株式会社トクヤマ大阪オフィス (大阪市北区中之島二丁目2番7号 中之島セントラルタワー) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

2026年6月19日に提出いたしました第162期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部【企業情報】

第2【事業の概況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(4)トクヤマの価値創造プロセス

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

(1)サステナビリティに関する考え方

指標及び目標

(2)気候変動への対応

指標と目標

a)気候関連の指標

b)Scope 1、2、3のGHG排出量

c)目標およびその目標に対するパフォーマンス

3 【訂正箇所】

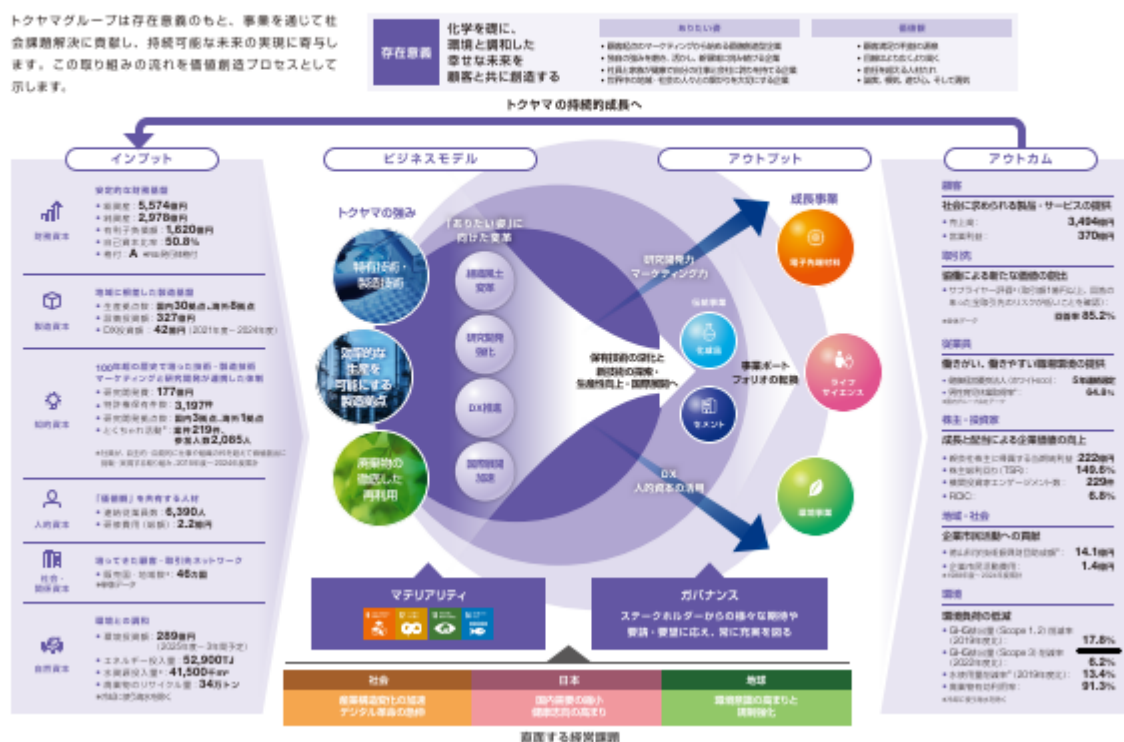
訂正箇所は____を付して表示しております。

(訂正後)

< 省略 >

価値創造プロセス

トクヤマグループは存在意義のもと、事業を通じて社会課題解決に貢献し、持続可能な未来の実現に寄与します。この取り組みの流れを価値創造プロセスとして示します。



2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

< 省略 >

(1) サステナビリティに関する考え方

< 省略 >

指標及び目標

< 省略 >

(訂正前)

[マテリアリティおよび指標]

マテリアリティ	目指す姿	目標・KPI	2025年度の実績
地球温暖化防止への貢献	選定理由：・脱炭素社会への移行が国際的な潮流となっている。 ・GHG多排出企業として、着実に削減を実行する責任がある。 ・中計の重点課題にも挙げている。		
	2050年度カーボンニュートラル（CN）の達成	・当社グループ全体のGHG排出量削減、いずれも2030年度までに ・Scope 1、2 30%（2019年度比） ・Scope 3（カテゴリー1、3、4） 10%（2022年度比） ・気候関連情報の積極的な開示	・2025年度GHG削減量： ・Scope 1、2 <u>17%</u> ・Scope 3 6% ・周南コンビナート連携の推進（周南コンビナート脱炭素推進協議会） ・非化石燃料転換の推進、Scope3削減の取り組み、環境価値創出の取り組み ・開示情報の充実推進

< 省略 >

(訂正後)

[マテリアリティおよび指標]

マテリアリティ	目指す姿	目標・KPI	2025年度の実績
地球温暖化防止への貢献	選定理由：・脱炭素社会への移行が国際的な潮流となっている。 ・GHG多排出企業として、着実に削減を実行する責任がある。 ・中計の重点課題にも挙げている。		
	2050年度カーボンニュートラル（CN）の達成	・当社グループ全体のGHG排出量削減、いずれも2030年度までに ・Scope 1、2 30%（2019年度比） ・Scope 3（カテゴリー1、3、4） 10%（2022年度比） ・気候関連情報の積極的な開示	・2025年度GHG削減量： ・Scope 1、2 <u>18%</u> ・Scope 3 6% ・周南コンビナート連携の推進（周南コンビナート脱炭素推進協議会） ・非化石燃料転換の推進、Scope3削減の取り組み、環境価値創出の取り組み ・開示情報の充実推進

< 省略 >

(2) 気候変動への対応

< 省略 >

指標と目標

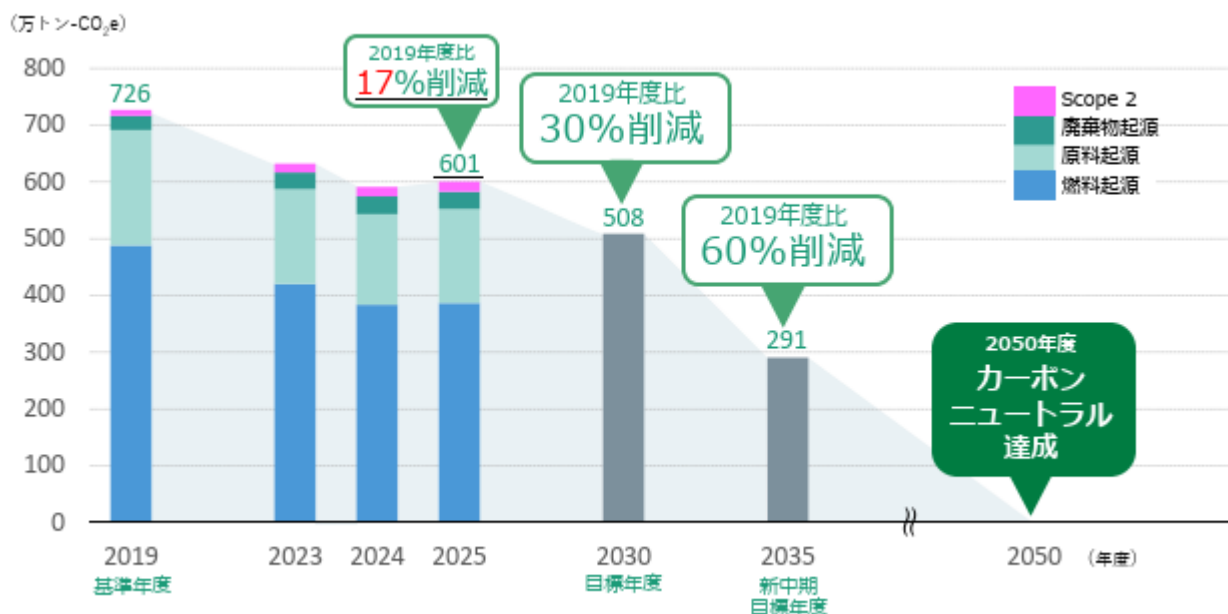
< 省略 >

a) 気候関連の指標

< 省略 >

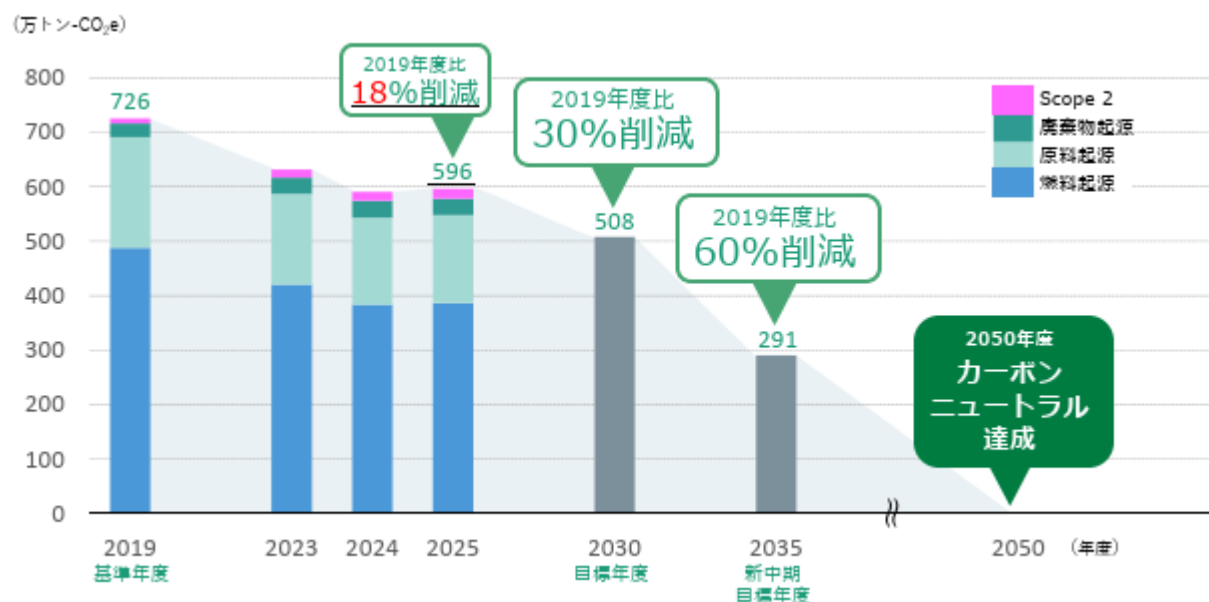
(訂正前)

GHG排出量 (Scope 1、2) 中長期削減目標



(訂正後)

GHG排出量 (Scope 1、2) 中長期削減目標



b) Scope 1、2、3のGHG排出量

(訂正前)

下表は、GHG排出量（Scope 1、2、3）の推移を表したものです。2025年度は、バイオマス混焼や積極的な省エネルギー活動により、GHG排出量（Scope 1、2）は基準年度2019年度比で17%削減しました。また、GHG排出量（Scope 3）は、基準年度2022年度比で6%削減しました。

GHG排出量(Scope 1、2、3)の推移

(万トン-CO₂e)

			2019年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope 1	トクヤマ (単体)	燃料起源 (GHGプロトコル)	487.2	438.1 *	419.2 *	382.4 *	385.3 *
		原料起源 (GHGプロトコル)	203.6	180.3 *	166.6 *	159.5 *	165.7 *
		廃棄物起源	25.3	32.1 *	29.6 *	31.2 *	30.4 *
	国内グループ会社		0.5	0.6 *	0.7 *	0.7 *	0.7 *
	海外グループ会社		0.1	0.2 *	0.7 *	0.6 *	0.6 *
	Scope 1 合計		716.6	651.1 *	616.8 *	574.4 *	582.7 *
Scope 2	トクヤマ (単体)		3.1	3.9 *	3.7 *	6.1 *	6.3 *
	国内グループ会社		0.9	0.8 *	0.8 *	0.9 *	0.9 *
	海外グループ会社		5.2	8.7 *	10.7 *	9.6 *	10.7 *
	Scope 2 合計		9.2	13.3 *	15.2 *	16.6 *	17.9 *
Scope 3	トクヤマ (単体) (カテゴリ1~7, 9)		178.7	176.0	166.2	163.3	163.2
	トクヤマ (単体) (カテゴリ1, 3, 4)		169.7	167.8 *	157.5 *	153.8 *	153.5 *
	国内連結生産子会社 (カテゴリ1, 3, 4)		—	3.3	3.2 *	3.6 *	3.2 *
	海外連結生産子会社 (カテゴリ1, 3, 4)		—	15.1	16.3 *	17.2 *	18.0 *
	Scope 3 合計 (カテゴリ1, 3, 4)		169.7	186.2	177.0 *	174.6 *	174.7 *

* GHGプロトコルで第三者認証取得 (限定的保証)

※バイオマスに由来するGHG排出量 (2025年度実績) は、36万トン-CO₂eでした。

連結生産子会社の追加および算定過程における四捨五入の廃止に伴い、過去数値を修正しております (算定ロジックに変更はありません)。

(訂正後)

下表は、GHG排出量（Scope 1、2、3）の推移を表したものです。2025年度は、バイオマス混焼や積極的な省エネルギー活動により、GHG排出量（Scope 1、2）は基準年度2019年度比で18%削減しました。また、GHG排出量（Scope 3）は、基準年度2022年度比で6%削減しました。

GHG排出量(Scope 1、2、3)の推移

(万トン-CO₂e)

			2019年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope 1	トクヤマ (単体)	燃料起源 (GHGプロトコル)	487.2	438.1 *	419.2 *	382.4 *	385.3 *
		原料起源 (GHGプロトコル)	203.6	180.3 *	166.6 *	159.5 *	161.5 *
		廃棄物起源	25.3	32.1 *	29.6 *	31.2 *	30.4 *
	国内グループ会社		0.5	0.6 *	0.7 *	0.7 *	0.7 *
	海外グループ会社		0.1	0.2 *	0.7 *	0.6 *	0.6 *
	Scope 1 合計		716.6	651.1 *	616.8 *	574.4 *	578.5 *
Scope 2	トクヤマ (単体)		3.1	3.9 *	3.7 *	6.1 *	6.3 *
	国内グループ会社		0.9	0.8 *	0.8 *	0.9 *	0.9 *
	海外グループ会社		5.2	8.7 *	10.7 *	9.6 *	10.7 *
	Scope 2 合計		9.2	13.3 *	15.2 *	16.6 *	17.9 *
Scope 3	トクヤマ (単体) (カテゴリー1~7, 9)		178.7	176.0	166.2	163.3	163.2
	トクヤマ (単体) (カテゴリー1, 3, 4)		169.7	167.8 *	157.5 *	153.8 *	153.5 *
	国内連結生産子会社 (カテゴリー1, 3, 4)		—	3.3	3.2 *	3.6 *	3.2 *
	海外連結生産子会社 (カテゴリー1, 3, 4)		—	15.1	16.3 *	17.2 *	18.0 *
	Scope 3 合計 (カテゴリー1, 3, 4)		169.7	186.2	177.0 *	174.6 *	174.7 *

* GHGプロトコルで第三者認証取得（限定的保証）

※バイオマスに由来するGHG排出量（2025年度実績）は、36万トン-CO₂eでした。

連結生産子会社の追加および算定過程における四捨五入の廃止に伴い、過去数値を修正しております（算定ロジックに変更はありません）。

・GXリーグ
(訂正前)

<省略>

Scope 1の2023～2025年度3か年合計値は、1,681.3万トンとなり、GXリーグ内で設定した自主目標（1,834.6万トン）を達成しました。

<省略>

トクヤマグループのGHG排出量(GXリーグ登録数値)

		(万トン-CO ₂ e)			
		基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope 1	トクヤマ（単体）	660.0 *	585.9 *	542.1 *	<u>551.2</u> *
	廃棄物起源（控除）	(-26.3) *	(-29.4) *	(-31.0) *	(-30.2) *
	国内連結生産子会社	0.5 *	0.7 *	0.7 *	0.7 *
	Scope1の合計	660.5 *	586.7 *	542.7 *	<u>551.9</u> *
	Scope1の3か年合計	—	<u>1681.3</u>		
Scope 2	トクヤマ（単体）	2.8 *	3.5 *	6.1 *	6.3 *
	国内連結生産子会社	1.1 *	0.7 *	0.8 *	0.9 *
	Scope2の合計	3.9 *	4.3 *	6.9 *	7.2 *
Scope 1, 2の合計		664.4 *	591.0 *	549.7 *	<u>559.1</u> *

* 第三者認証（合理的保証）を取得。2023年度は限定的保証から合理的保証に切り替えた後の数値。

* バウンダリの変更により再登録。

※基準年度は2019～2021年度の平均値

(訂正後)

<省略>

Scope 1の2023～2025年度3か年合計値は、1,677.1万トンとなり、GXリーグ内で設定した自主目標(1,834.6万トン)を達成しました。

<省略>

トクヤマグループのGHG排出量(GXリーグ登録数値)

(万トン-CO₂e)

		基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope 1	トクヤマ(単体)	660.0 *	585.9 *	542.1 *	<u>546.9 *</u>
	廃棄物起源(控除)	(-26.3) *	(-29.4) *	(-31.0) *	(-30.2) *
	国内連結生産子会社	0.5 *	0.7 *	0.7 *	0.7 *
	Scope1の合計	660.5 *	586.7 *	542.7 *	<u>547.7 *</u>
	Scope1の3か年合計	—	<u>1677.1</u>		
Scope 2	トクヤマ(単体)	2.8 *	3.5 *	6.1 *	6.3 *
	国内連結生産子会社	1.1 *	0.7 *	0.8 *	0.9 *
	Scope2の合計	3.9 *	4.3 *	6.9 *	7.2 *
Scope 1, 2の合計		664.4 *	591.0 *	549.7 *	<u>554.9 *</u>

* 第三者認証(合理的保証)を取得。2023年度は限定的保証から合理的保証に切り替えた後の数値。

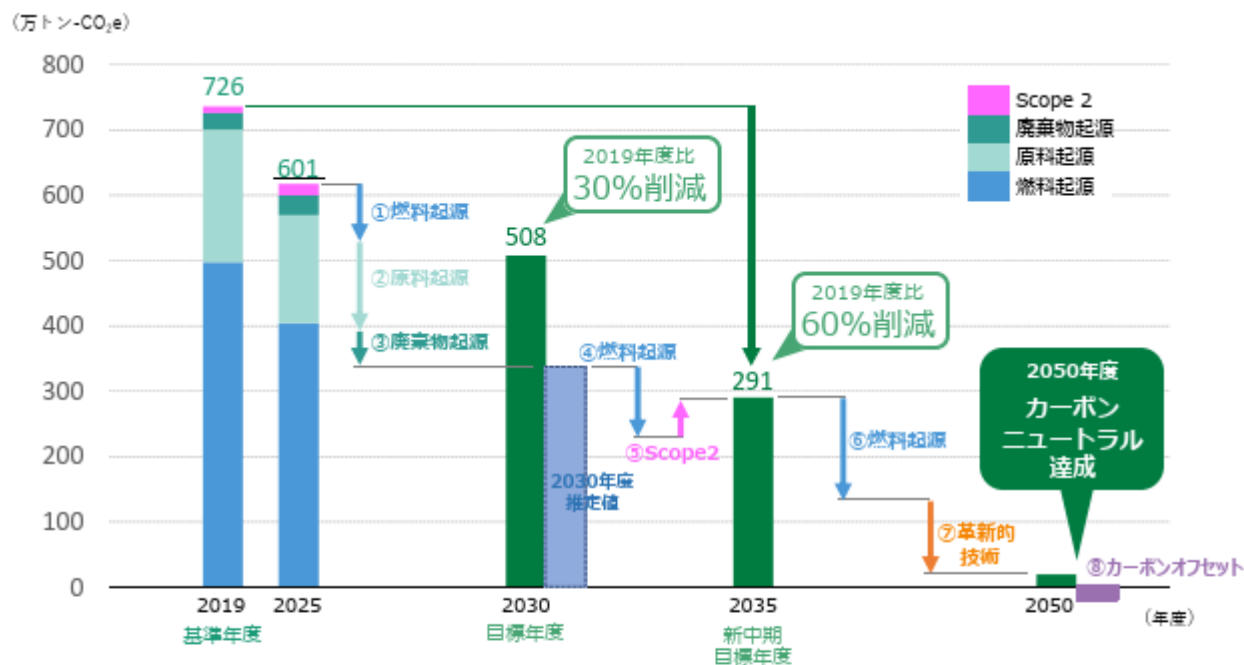
* バウンダリの変更により再登録。

※基準年度は2019～2021年度の平均値

c) 目標およびその目標に対するパフォーマンス
(訂正前)

<省略>

GHG排出量(Scope 1、2)の中長期削減目標



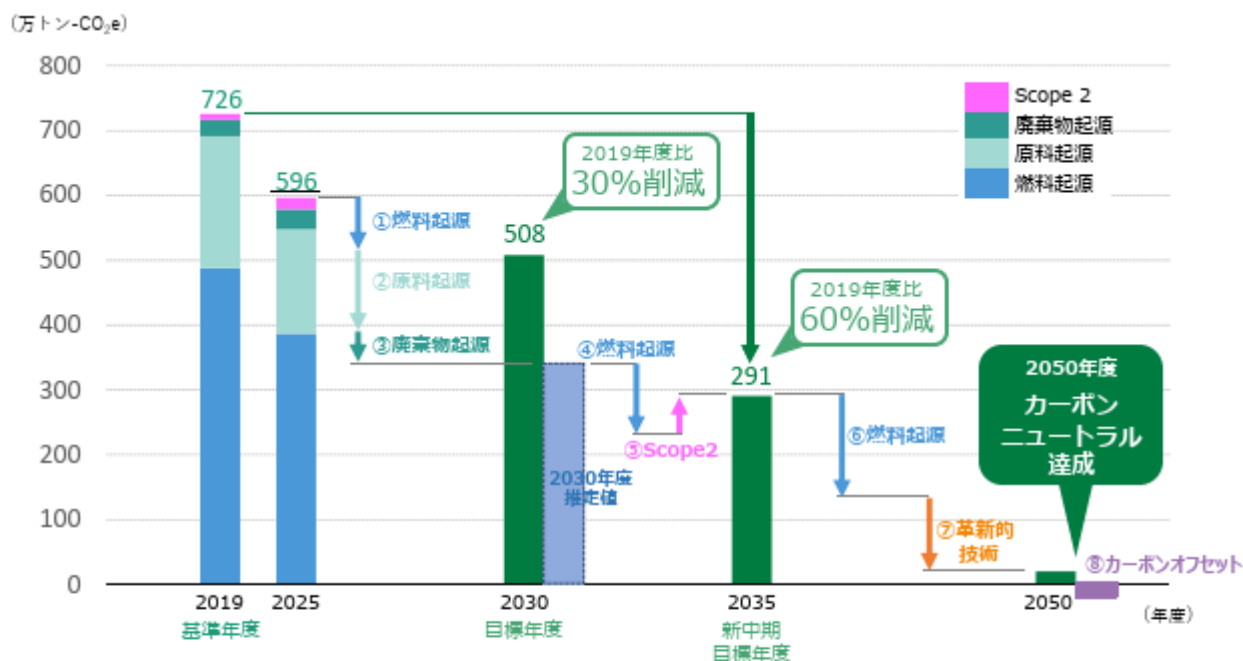
①	▶ 事業ポートフォリオ転換	▶ 省エネ、プロセス改善、設備更新
		▶ バイオマス混焼率増加
②	▶ 事業ポートフォリオ転換	
③	▶ 事業ポートフォリオ転換	
④	▶ バイオマス混焼率増加	▶ 省エネ、プロセス改善、設備更新
		▶ 石炭火力発電量の減少
⑤	▶ 購入電力への切替	

	▶ 燃料転換	
	▶ 省エネ、プロセス改善、設備更新	
⑥	▶ 事業ポートフォリオ転換	
	▶ 購入電力(再エネ)の増加	
	▶ コンビナートエネルギー効率化	
⑦	▶ 革新的製法への転換	
⑧	▶ ネガティブエミッション技術の導入(CCS)	
	▶ カーボンオフセット	

(訂正後)

<省略>

GHG排出量(Scope 1、2)の中長期削減目標



①	事業ポートフォリオ転換	省エネ、プロセス改善、設備更新
		バイオマス混焼率増加
②	事業ポートフォリオ転換	
③	事業ポートフォリオ転換	
④	バイオマス混焼率増加	省エネ、プロセス改善、設備更新
		石炭火力発電量の減少
⑤	購入電力への切替	

	燃料転換
	省エネ、プロセス改善、設備更新
⑥	事業ポートフォリオ転換
	購入電力(再エネ)の増加
	コンビナートエネルギー効率化
⑦	革新的製法への転換
⑧	ネガティブエミッション技術の導入(CCS)
	カーボンオフセット